

性の多様性に対応したシナリオによる「いのちのおはなし会」の実践

杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻：佐々木裕子、長谷川和子(保健学部母子看護学)



1. 活動の背景

幼い子どもたちへの性犯罪やいじめ、自殺など命を軽視した事件が社会問題化している。周りの大人たちが命や性について正しい知識とスキルを持ち、子どもたちを育てることが重要である。これまでおはなし会では、命の大切さを伝えるとともに、子どもたちが自分の体を知りプライベートゾーンを守ることができること、保護者や保育士が子どもたちの体や性の疑問に向き合うことの3点を目的に活動を続けてきた。しかし近年、男女の性にとらわれない多様な性のあり方が問われており、幼児期の子どもたちへの対応についても検討が必要である。

3. 対象および方法

対象：小金井市の保育園の園児(4歳～5歳児)と保護者、保育士

方法：保健学部の学生(4～5名)によるパネルシアター、エプロンシアターを用いた保育園訪問型活動

2. 活動の目的

- ① 子どもたちが命の大切さを知り、自分や周りの友達を大切にできる
- ② 子どもたちが男女の体の違い、こころの性・体の性の多様性を理解できる
- ③ 周りの大人たちが子どもからの身体や性に関する質問に向き合い教育的関わりを考える機会となる

4. 過去3年間のおはなし会の活動実績

年	施設の内訳	子ども	保護者	保育士
2019	保育園 3	98	9	12
2020	保育園 0	0	0	0
2021	保育園 0	0	0	0

* 2019年度は11園実施予定のところ3園のみ実施
* 2020年以降はCOVID-19感染拡大の影響で中止



5. おはなし会の活動における3つの柱

- **いのちを大切に** 一人ひとりが大切にされて生まれてきたからこそいのちは大切に。自分や友達、周りの人を大切にする。
- **プライベートゾーンは自分で守る**

プライベートゾーン(男の子のおちんちん、女の子の赤ちゃんの通り道、おしり、胸、口)は自分だけの大切な場所。誰かにプライベートゾーンを見られたり触られそうになったら周りの大人に知らせ、子ども自身が性犯罪に巻き込まれないスキルを身につける。

- **からだとこころを大切に** 人それぞれ心の色が違うこと、友達と好きなものや好きな人が違っててもよいこと、自分とは違う友達の心とからだを大切にする。



6. 次年度の活動へ向けて 今年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響でおはなし会を行うことができなかった。そのためおはなし会の動画を撮影し、子ども達に視聴してもらうことでおはなし会のメッセージを届けることにした。次年度は、開催方法を工夫しながら、子どもたちだけでなく保護者も対象として多様な性を考慮した新しいシナリオで、ひとりひとりの個性を大切にしたいおはなし会に繋げていきたい。